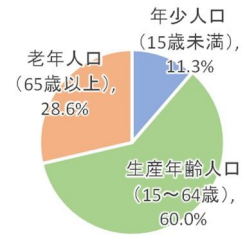


	世帯数	人 口	年 齢 別 人 口
現 在	619 世帯	1,248 人	15 歳未満 (年少人口) 156 人
			15~64 歳 (生産年齢人口) 826 人
			65 歳以上 (老年人口) 394 人
約 50 年前	389 世帯	1,346 人	



歴史等

明治 27 年 (1894) の播但鉄道の開通・福崎駅の設置により、駅前には多くの商工業者が移住して集落が形成され、字駅前と呼ばれました。明治時代末頃には 100 戸以上が軒を連ね、郡内でも中心的な商業地となり、銀行や延 吠 製造工場、製材所、精米所、酒造所、印刷所の他、女子技芸学校、病院、米穀検査所、蕨 吠 検査所なども立地しました。そして、この人口の増加を背景に、福崎村に町制が施行されて福崎町となりました。

新開地である駅前には、崇敬すべき神社・信仰すべき祭神がなかったことから、大正 4 年 (1915) 11 月の大正天皇即位の御大典を機に、祭神として、宇賀御魂神を伏見稻荷神社 (京都市) より、最上稲荷大菩薩を最上稲荷 (岡山市) より勧請して道分稲荷神社が創建されました。



道分稲荷神社



夏祭り (道分稲荷神社)



秋祭り・屋台



石標 (福崎駅前)



妙見堂



題目塔・石燈籠 (妙見堂)

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和 4 年 5 月末時点、10 年間の人口・世帯数の推移は各年 5 月末時点、約 50 年前の人口・世帯数は昭和 52 年 6 月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり								
				①	②	③	④	⑤	⑥			
建造物	建築物	1	道分稻荷神社	大正4年 (1915)	木造平屋建、瓦葺。近代の神社建築。 駅前区が所有・管理している。					●		
		2	妙見堂	不明	木造平屋建て、銅板葺。駅前区が所有・管理している。道路改修に伴い屋根の一部の形状変更。					●		
		3	旧大野酒造酒蔵	近代	木造。近代の酒蔵建築。				●	●		
		4	旧大野酒造倉庫	近代	木造。近代の酒蔵(倉庫)建築。				●	●		
	石造物	5	題目塔(妙見堂)	昭和15年 (1940)	正面には「南無妙法蓮華經高祖日蓮大菩薩 一天四海 皆歸妙法 □□菩薩 玄題一字一石」、背面には造立年月等が記されている。						●	
		6	石灯籠(妙見堂)	昭和7年 (1932)	左右一対の石灯籠であったが、道路改修に伴い左側1基は解体。右灯籠の正面に「献」、背面に造立年月等、左灯籠の正面に「灯」、背面に願主が記されている。						●	
		7	手水石(妙見堂)	昭和5年 (1930)	手水石。正面に「漱盥」、背面に施主・造立年月が記されている。						●	
		8	石標(JR福崎駅)	不明	正面と右に「県下 八景 七種瀧金剛城寺」、背面に「神戸新聞社」と記されている。JR福崎駅の駅前工事に伴い現在地に移設。				●			
美術工芸品	絵画	9	おみくじ集額(道分稻荷神社)	昭和9年 (1934)	画家は「和田溪水」、奉納者は「後藤傳蔵」とある。絵と文字による12種類の「おみくじ」集。61×87cm。						●	
		10	浄瑠璃稽古揚額(道分稻荷神社)	大正14年 (1925)	奉納者は「志水秀吉」とある。48.5×89cm。			●			●	
有形の民俗文化財	祭具	11	屋台(駅前区)	平成15年 (2003)	神輿屋根型屋台。平成15年(2003)に新調したもので、姫路市白浜の屋台大工・毛利陽計氏が製作。練り方や差し上げ方に特徴があり、他地区とは違った浜手風の雰囲気醸し出す。						●	●

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり							
				①	②	③	④	⑤	⑥		
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	12	秋祭り（福崎）	—	福崎地区・高岡地区の屋台 13 台（布団屋根型 6 台、神輿屋根型 7 台）が二之宮神社に集まる。本宮では、宮元である山崎屋台が 12 台の屋台を JR 福崎駅前へ迎えに行き、福崎駅前で屋台が練り上げられた後、二之宮神社に宮入りする。拜殿で神事が行われ、五穀豊穡が祈願された後、宮出しが行われる。山崎の木方による合図で一斉に屋台が動きだし、練り合わせを行う「13 台サラバ練り」は見どころである。				●	●	●
		13	トンド	—	1 月 14 日に七種川付近(福田水源地)の空地で行われる。					●	
		14	初午祭	—	2 月 11 日に行われる。					●	
		15	夏まつり	—	7 月 25 日に道分稲荷神社で行われる神社の夏祭り。戦前から出し物や屋台が出たり、芸者が踊ったりする祭りが行われており、戦後にその祭りを引き継ぐ形で始められたとされる。					●	
		16	七夕祭	—	8 月第 1 日曜に老人会と子ども会で行われる。					●	
遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡等	17	福田東田黒遺跡	中世	中世の土師器の鍋類や皿類といった遺物を伴う溝状遺構やピットが確認されており、集落遺跡の可能性が高い。		●				
		18	中溝遺跡	中世	ピット（小さな穴）や土坑が検出され、ピット内からは中世後半のものと思われる須恵器が出土し、中世の遺跡であることが確認された。		●				
	街道・古道等	19	旧神西郡の南北道	—	市川右岸を通る。江戸時代には、本道である生野街道ではなく神西郡を通る道筋も頻繁に利用され、役人等の通行時の休泊や諸費用の継立で難渋したため、本道を通るよう嘆願書も提出されている。					●	

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類		名称		年代	概要	歴史文化ものがたり					
						①	②	③	④	⑤	⑥
名勝地	河川・滝	20	七種川	—	七種の滝を源として南流し、市川に合流する。延長5,924m。かつては大雨が降る度に洪水を起こした。普段はほとんど水がなく、「七種川と水の話」という民間説話が伝わる。		●				
その他	信仰の場	21	道分稻荷神社	—	駅前区の氏神。名の通り道を2つに分けるV字の地形に建てられている。商売繁盛や学芸向上祈念の場となっている。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りや信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

歴史文化遺産の保存・活用の取組等

- ・ 駅前祭り保存会を組織し、祭り太鼓、伊勢音頭の保護・継承のため、後継者の育成に向けた取組を実施しています。
- ・ 駅前幟芸保存会を組織し、幟芸、伊勢音頭幟唄の保護・継承のため、後継者の育成に向けた取組を実施しています。
- ・ 隣保輪番制の世話人を中心に区の住民の大半が参加する道分稻荷神社夏祭りを開催しています。
- ・ 自立（律）のまちづくり交付金事業を活用して、子ども会親子・老人会・民生児童委員・えきの会・消防団・区役員等で杵を使って餅つきを行う三世代交流ふれあいもちつき大会を実施しています。



道分稲荷神社夏祭り

